

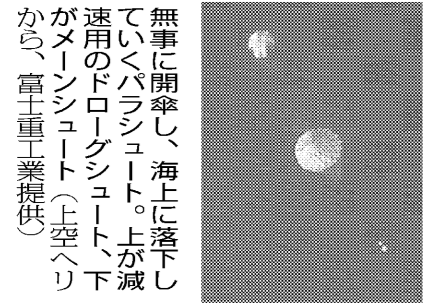
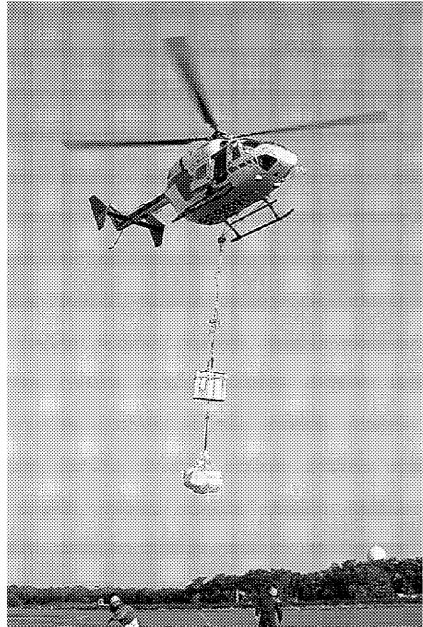
### 降下回収系パラシュート

# 空中落下試験に成功

成層圏フラットフォーム計画 富士重工が海上実験

【大樹】無人飛行船による通信・放送、地球観測システム「成層圏フラットフォーム計画(SPF)」の研究開発に伴い、飛行船(試験機)を受注した富士重工業(本社東京)は5日、大樹町多目的航空公園沖の海上で、同試験機に搭載する「降下回収系パラシュート」の空中落下試験を行い、成功させた。(浅井文人)

パラシュートをつり下げて多目的航空公園から海上へ出発するヘリコプター



今回のパラシュートはSPFに関連し、40級級の飛行船を成層圏に到達させる技術を確立する成層圏滞空飛行試験(2003年から茨城県日立市

で実施予定)で活用。飛行船を上空から回収する際、試験機は同飛行船に搭載するものと同一パラシュートを使い、無事に開くかを確認した。  
2種類のパラシュート(①減速用のドロークシユート②本体のメインシユート)の下に、飛行船と同じ重さになるように水を入れたタンク12個約200kgを装着。午後3時15分、同公園滑走路から、パラシュートなどを下ろしたヘリコプターが離陸。  
同公園沖6mの海上の高度約3mから放出。同時にドロークシユート、続いて10秒後にメインシユートがそれぞれ無事に開傘し、ゆっくりと海面に着水した。回収は大樹漁協の協力で行われた。同社の木村順一・航空

無事に開傘し、海上に落下していくパラシュート。上が減速用のドロークシユート、下がメインシユート(上空へ降り、富士重工業提供)